

2018年(平成30年)7月3日(火曜日)

アイスピグ管内洗浄工法 送水流量が3倍以上回復

池田町下水道管理センターで

道地域協会が見学会

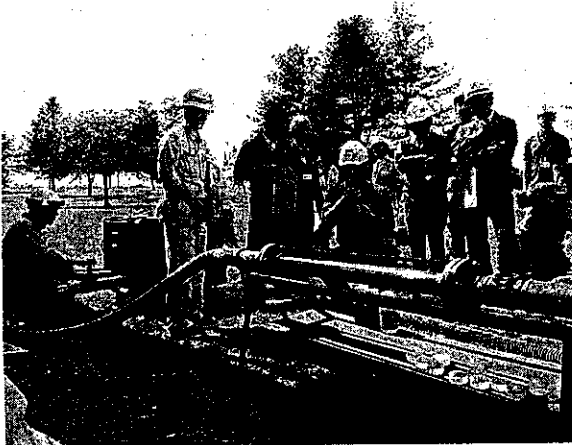
アイスピグ北海道地域協会は6月28日、池田町下水道管理センターでアイスピグ管内洗浄工法の現場見学会を行った。従来のピグ工法にはない、曲がりや口径の変化にも追従するメリットをアピール。送水流量が3倍以上回復し、その効果を実証した。

同工法はアイスピグと呼ばれるシャーパーット状の氷を管内に注入し、汚れを擦り取り、堆積する

砂や石などの夾雑(きょうざつ)物をシャーパーット内に包み込んで運び、管外へ排出するもの。シャーパーット状の氷なので従来のピグ工法のように詰まって取り出せなくなったり管壁を傷めるリスクはない。長距離の洗浄や管の曲がり、口径の変化にも対応する。

同町発注の下水道管理センター生活泥移送管清

黒い砂を含んだアイスシャーパーットを透明パイプで確認する見学者



掃業務をTMS工業(本社・札幌)が受注。径1500mm、延長1350mの平面縦断の屈曲の多い管路でアイスピグの洗浄を行い、その模様を見学会として公開したもの。周辺自治体の上下水道関係職員や管内の洗浄関連業者ら約30人が集まり、洗浄作業を見学した。

当日は製氷機とデリバリーユニット車を搬入。現地で管内洗浄に使う特殊アイスシャーパーットを作り、見学者らは、かき氷のような感触を確かめた。その後、アイスシャーパーットを管内に注入し、管内の水流と水圧によって形状を変えながら移動し、夾雑物を取り込みながら排出。目視用に排出側に設置された透明アクリルパイプには洗浄された黒い砂を含んだアイスシャーパーットが流れ込んできた。施工前は毎時17立方メートルだった送水流量は3倍以上の66立方メートルに回復した。

同協会ではきょう3日と4日に札幌市内のつとむで開催されるSPR工法・光硬化工法合同デモ展示会にブースを出展しデモンストレーションを行う。

(企画記事)